

平成21年度教育委員会事務点検評価(平成20年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	8
事務事業の名称	図書館管理運営事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 中央図書館
		電話番号	04-2954-4646
実施期間	昭和63年度 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H20~22)事業名	レファレンスサービス(資料相談業務)事業
	1節 生涯学習の振興	個別計画等の名称	
	1項 生涯学習の推進		
	2目 生涯学習の機会や場の拡充		
実施根拠	図書館法、狭山市立図書館設置条例		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	昭和40年代からの人口急増に伴い、生涯学習施設としての図書館の果たす役割は年々大きくなり、利用者も増加し、市民の図書館に対するニーズも増大する状況にあった。そこで、昭和63年に旧市役所を改修して移転するとともに、平成5年に狭山台図書館を開館した。		

2 事務事業の目的・内容

目的	市民の文化・教養・調査研究・レクリエーション等を支える施設として、図書資料等の整備とレファレンスサービスの充実を図り、利用者のニーズに応える。
対象	市民及び近隣市の住民

活動内容	資料の収集及び保存、資料の利用及び貸出、移動図書館車の運行、他市・他県の図書館との資料の相互貸借、読書案内・相談及び調査研究に対する支援、視聴覚資料の収集及び貸出、幼児・児童を対象としたお話し会や映画会の開催、図書館ボランティア及び学校・公民館等との連携協力。
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価) 継続 継続
環境配慮	自主事業や各種行事の開催にあたり、車での利用を控え、公共交通機関を利用するよう呼びかけている。また、パンフレット等を作成する際には再生紙を使用し、印刷は必要最小限の部数としている。
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	目標値の根拠・考え方
(実施状況指標)	所蔵資料数	目標値	点	566,528	581,291	592,778	607,278	過去3年間の増加資料数の平均値に前年度の所蔵資料数を加えた値
		実績値		568,917	579,812	594,061		
	達成率		100.4%	99.7%	100.2%			
	達成率							
(成果指標)	貸出資料数	目標値	点	820,606	802,305	787,205	782,216	過去3年間の貸出資料数の平均値
		実績値		787,087	772,942	786,620		
	達成率		95.9%	96.3%	99.9%			
	達成率							
利用者数	目標値	人		294,577	288,412	282,970	279,843	過去3年間の利用者数の平均値
	実績値			283,064	278,021	278,444		
	達成率			96.1%	96.4%	98.4%		

4 事業費

		区分	単位	18年度	19年度	20年度	21年度
経費	直接費	予算額	千円	109,353	107,697	98,219	95,109
		決算額	千円	108,923	107,293	97,979	
	財源内訳	国県支出金	千円	0	0	0	
		その他特定財源	千円	9,861	7,746	7,941	
		一般財源	千円	99,062	99,547	90,038	
	人件費	従事職員数	人	12.00	12.75	9.00	
人件費(従事職員数×平均給与)		千円	107,640	114,291	82,566		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	216,563	221,584	180,545	
効率性指標	指標名	利用者数	人	283,064	278,021	278,444	1単位当たりの経費
	単位コスト	利用者一人当たりの経費	円	765	797	648	

5 事務事業の評価

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4	市民の文化・教養・調査研究・レクリエーション等を支える施設として、図書資料等の充実やサービスの向上を図り、利用者のニーズに的確に応えていく必要がある。
		4	
	有効性	4	所蔵資料数は充実してきており、リクエスト・予約件数、調査相談件数はここ数年増加傾向にある。今後も利用者のニーズを的確に捉えた蔵書構成と図書館運営をすることにより、図書館利用は増加する。
4			
効率性	・手段の最適性 ・コスト効率の向上 ・受益者負担の適正化 ・執行体制の効率化など	4	臨時職員の活用により、職員体制の効率化を図り、人件費にかかるコストの削減が図られている。指定管理者制度の導入については、平成21年度中に方向性を明確化することとしている。
		4	
		< 5段階評価 > 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い	
今後の方向性		<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了	
利用者サービスの充実を図るため、利用者用インターネット端末を設置したところである。今後は、利用者からの多様なニーズに対応したレファレンス(調査・相談)業務の充実を図り、また、図書館から情報発信を行い地域の情報拠点として、魅力ある図書館づくりを一層進めていく。			

6 その他(学識経験者の意見等)

学校、公民館、博物館等との連携を深める中で、新しい事業をさらに展開できるのではないかと、また、ボランティアの受け入れを増やすことによって、多様な活動が考えられるのではないかと